

平成30年度 神奈川県患者のための薬局ビジョン推進事業

平塚中郡薬剤師会

事業目的

平成30年度神奈川県患者のための薬局ビジョン推進事業概要
 薬局薬剤師が、かかりつけ機能(連携体制構築)及び健康サポート機能(健康増進支援)を発揮できる環境づくりを行う。

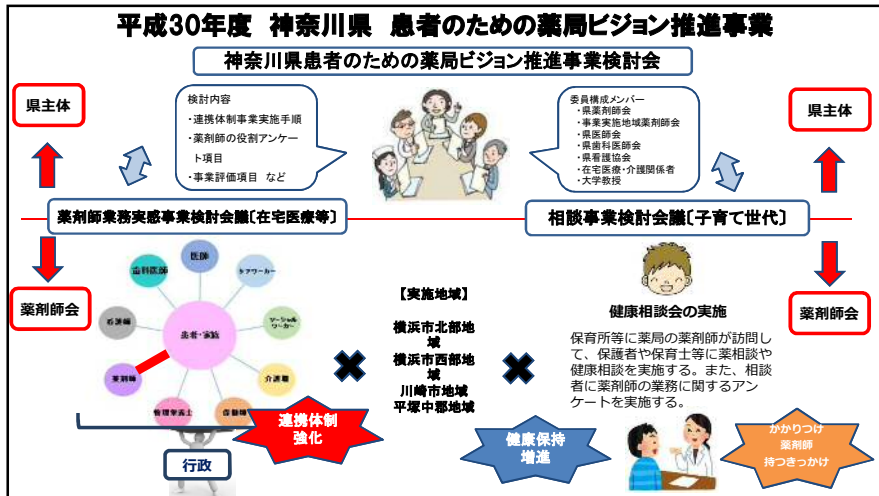
ポイント

- 薬剤師に薬剤管理指導をして欲しい患者等の居宅に薬剤師を派遣することで、患者や多職種が薬剤師の有用性を実感できる。
- ➡ かかりつけ機能のひとつである「在宅業務」を行うことで、**かかりつけ機能(連携体制構築)**を強化
- 調剤薬以外にも相談したいと要望が多かった子育て世代を対象としたお薬相談を行う。➡ **健康サポート機能(健康増進支援)**を強化

関係機関とあらかじめ連携体制を構築

- 1. 薬剤師等に対する地域ニーズの把握**
 地域包括支援センター、在宅医療連携拠点や介護老人保健施設、訪問看護ステーション、介護事業所等を対象に、事業実施地域において薬剤師に求める具体的な役割等を調査・分析する。また、併せて、薬剤師に薬剤管理指導をして欲しい患者や介護が必要な方の情報等個別の事業も収集する。
- 2. 薬剤師等と地域との多職種との連携推進**
 ・多職種からの相談受付及び薬局紹介を行う体制を確保し、地域ニーズに対応できる薬局の紹介や薬剤師の積極的な派遣を行い、患者や地域の医療・介護関係者に薬剤師の有用性を実感してもらう。
 ・事業地域毎に、本事業終了後も服薬管理等に関する問い合わせに薬剤師を紹介できる体制を維持する。
- 3. 出張お薬相談(子育て世代対象)(平成29年度事業から継続)**
 ・保育所・幼稚園等の近隣にある薬局薬剤師や学校薬剤師が保育所等を訪問して、保護者や保育士に薬の相談や健康相談を行う。
 ・事業後、気軽に薬局でお薬相談を行えるよう、保育所等の近隣にある健康相談を積極的に行う薬局のリストも配布する。

地域住民の健康の維持・増進を具体的に支援



おためし薬剤師訪問事業

在宅医療・介護における薬剤師業務実感事業 事業説明会

① 事業説明会

平成30年9月6日
平塚市保健センター
医師、歯科医師、ケアマネジャー、訪問看護師、
地域包括支援センター職員など、51名が出席



② 中郡在宅医療連絡協議会

事業概要説明と9月6日説明会出席依頼
平成30年8月28日
二宮町保健センター
医師、歯科医師、大磯町、二宮町健康福祉部、
大磯町地域包括支援センター職員など
約30名が出席



在宅医療・介護における薬剤師業務実感事業 事業説明会

③、④、⑤ 平塚市内中核病院を訪問し事業説明

(平塚市民病院、平塚共済病院、済生会湘南平塚病院)

平成30年9月10日、9月11日、9月19日

地域連携室・退院支援室の医師、事務職員に事業目的、概要、実施方法を
説明し協力を依頼

⑥、⑦ ケアマネジャー連絡会、訪問看護師研修会にて事業説明

平成30年9月15日、9月19日

ケアマネジャー13名、訪問看護師60名に事業目的、概要、実施方法を説明し
協力を依頼

在宅医療・介護における薬剤師業務実感事業

(1) ニーズ調査アンケート

アンケート回答期間 9月中旬から11月末

アンケート配布枚数 136 件

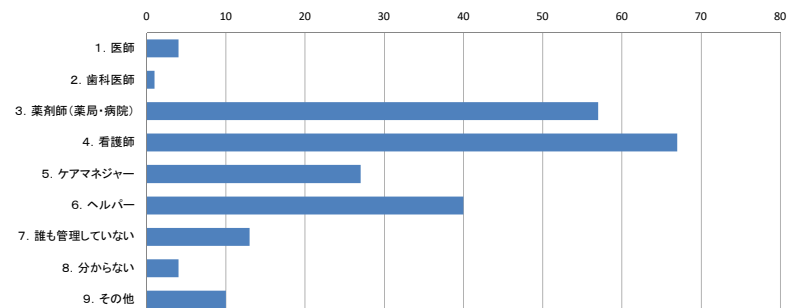
アンケート回収枚数 90 件

主たる調査対象者

病院、歯科クリニック、居宅介護支援事業所、
訪問看護事業所

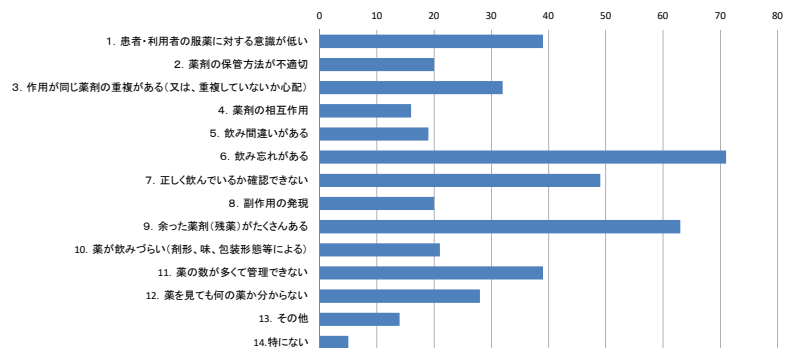
ニーズ調査結果①

1. あなたが関わる在宅医療又は介護の場において、本人や家族が薬の管理(服薬できているか、残薬の有無などの確認)を行っていない場合、誰が管理を行っていますか(複数回答可)



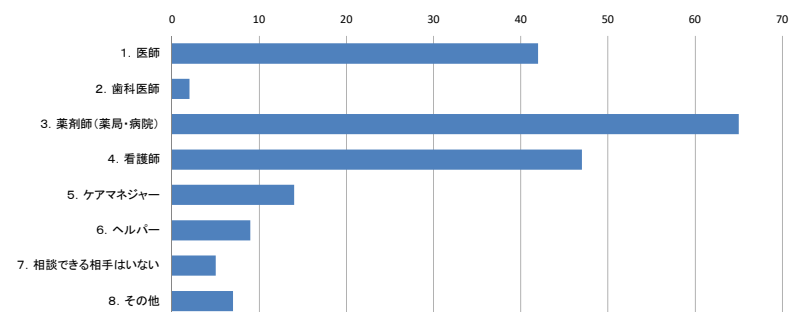
ニーズ調査結果②

2. 在宅医療又は介護の場で、患者又は利用者の薬について困っていることは何ですか(複数回答可)



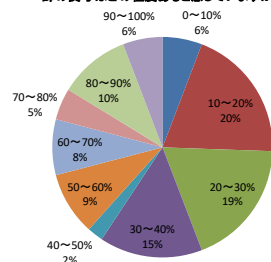
ニーズ調査結果③

3. 薬の服用や残薬管理に関して困ったときの相談は、主に誰にしていますか(複数回答可)

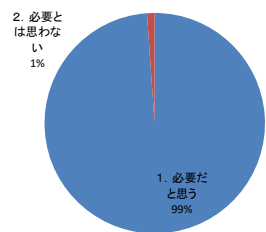


ニーズ調査結果④

4. あなたが関わる在宅医療や介護の場において、薬剤師の関与はどの程度あると感じていますか。



5. あなたは、在宅医療や介護の場に、薬剤師の関与は必要だと思いますか。



必要と思わない(1件)
薬剤の管理よりも栄養状態の管理が必要と考える[医師]

在宅医療や介護の場で、薬剤師はどのような関わりをしていくことがよいと考えますか

<患者様、利用者様との関わり>

- ・定期的に訪問し、健康状態を確認、分かりやすい薬の説明をする。
- ・いつでも気軽に相談が出来る環境にあることが大切だと思います。

など

<関係職種の方々との関わり>

- ・サービス担当者会議等で顔が見える関係作り
- ・薬剤についての相談窓口の開設
- ・多職種間で開催する事例検討会や地域ケア会議にも積極的に参加していただきたい
- ・常に相談できる体制を構築する

など

その他、薬のことや薬剤師に対する要望等

- 居宅療養管理指導等お金などの問題もありますが、薬を取りに行けない方が多いので配達をしてくださると助かります。マンパワーの問題等あると思いますが。
- 住民に対して、かかりつけ薬局や薬剤師の役割等、啓発できる機会があると良いと思います。町内の薬局さんとは良く連携の取れるところもありますが、在宅支援において関わりの少ない薬局があるのも実情かと思えます。私としては、薬剤師さんをとても頼りにしています。
- 利用者の薬に対する情報提供。定期的な情報共有の場を設ける。担当者会議への出席。相談窓口を設けて頂き困った時に相談できるシステム作り。
- ターミナルのケースにはほとんど薬剤師さんが入って下さるので利用者さんの体調で相談ができ、麻薬の使い方を丁寧に説明してもらえるところでも助かっています。老老介護をされているお宅に訪問し、生活の様子もしらせていただいています。在宅支援薬剤師増えてほしいです。
- 薬のことは薬剤師の方にお伺いするのが一番だと思っています。高齢者に関わる仕事のため、副作用などが心配になります。困ったケースがあれば相談をいつもご協力をいただいています。心強いです。
- 訪問薬剤の事業所によって関わってくれる内容に差がある。セットした薬を渡すだけのところもあれば、丁寧に説明し、内服の確認もしてくれるところもある。サービスの内容は決まったラインはあるのですか？
- その薬が必要なのかを ドクターに伝えて頂ける様な薬剤師も必要。

おためし薬剤師訪問

実施期間 9月中旬から12月末

在宅訪問実施回数

実施件数 18 件 ←

(内訳)

他職種から紹介された患者	20 件
内在宅訪問の実施に至った件数	17 件
薬剤師が直接働きかけた患者	3 件
内在宅訪問の実施に至った件数	1 件

紹介されたが在宅訪問に至らなかった理由

- ケース1
お試し薬剤師訪問事業終了後も継続することがほぼ確実であったため、患者におためし訪問の説明と、介護保険での在宅訪問の説明を繰り返すことになり、煩雑なため、介護保険使用での本契約で開始を希望したため。
(薬局側からの要望)
- ケース2
おためし訪問をするにあたり、薬局が紹介者のケアマネジャーを飛び越えて患者に訪問日時や内容について直接、連絡をしてしまい、話がこじれてしまったため。
- ケース3
患者宅の近くの薬局に依頼が来たが、紹介された患者は病院の近くの今まで通っていた薬局で薬をもらうことを希望したため。

薬剤師が働きかけたが在宅訪問に至らなかった理由

- ケース1
– 精神疾患により患者の理解力が低下しているため、薬局が粘り強く、事業の説明をしたが、理解を得られなかった。
- ケース2
– 患者、患者家族に事業説明をしたが、患者から手続きが煩雑だと断れてしまった。

訪問事業の結果

在宅訪問事後アンケート(訪問件数 18件)

関係職種	15 件
患者	16 件
薬局	18 件

- ・薬局薬剤師のアンケート回収は100%
- ・関係職種、患者アンケートは、催促したが回収できなかった件数がそれぞれ3件、2件。

事業実施により改善が見られた患者の状況

- ・改善した事柄
 - ・服薬状況の改善
調剤上の工夫(一包化・粉碎・簡易懸濁法等)
薬整理箱・服薬カレンダー
 - ・飲み残し・飲み忘れ(残薬)の整理
 - ・薬に対する理解の向上
 - ・多職種連携の改善
 - ・家族の負担の軽減

関係職種に関する実施評価

薬剤師との連携は有用であった(関係職種14件/全15件) 1件無回答

- ・ご家族、多職種が薬剤師の”訪問服薬”のメリットを知ることができた
- ・家族がなかなか手を出せなかった残薬の整理をすることが出来ました
- ・認知症があり、自分で正確に管理ができず、近所の人に助けを求めている。
薬のことなので 間違えたり、飲み忘れていたら不安という気持ちがあり負担感が強かったが、今回薬剤師と連携ができて専門職にお願いできたこと
- ・介護職ではわからない部分(知識)をカバーしていただくことができた
- ・非常に有用であった。精神科薬の重複処方、年齢の割に思考や言動が遅いことなど原因がよくわからず、現状を把握できただけでも大きな効果がありました

など

今後の在宅医療・介護における連携を 良好とするための取組みに関する意見等(関係職種より)

- ・かかりつけ薬局をもって、介護従事者との情報交換、意見交換が気軽にできる関係作りをすすめていくこと。
- ・薬の処方について医師→利用者(患者)の一方通行だったものを医師⇄利用者(患者)の相互通行を表現して欲しい
- ・顔の見える関係づくり
- ・多職種それぞれの役割を把握・理解していく必要性
- ・ご本人の性格上、私共素人では中々動くことはないと考えていますので、専門家である薬剤師からの助言・訪問を継続できたらよいと思います。
また、通院先の病院との連携支援ができなければ、「改善」は難しいと感じました。現状として、今回の事業後も「改善」はないです。

など

患者に関する実施評価

• 今後の薬剤師の参加について

参加してほしい 11件

必要ない 5件

必要がない理由 4件(理由記載なし 1件)

- ・今は娘が管理していますので、娘が薬を取りに行けなくなったら
お願いしたいと思います。
- ・わざわざ来てもらわなくても飲んでいる
- ・飲めているので
- ・現在の所家族、本人でできる

薬剤師に関する実施評価(回答件数18)

今回事業による患者様・利用者様の薬の管理の改善状況

13人が改善したと回答

今回事業での患者様・利用者様(ご家族)とのコミュニケーション

16人がコミュニケーションが取れたと回答

訪問間隔については

10～30日に1回程度の回答が最も多かった(13件)

今回の事業でうまくいった点

- ・紹介者同行での初回訪問により、打ち解けた雰囲気が進められた。
- ・多くの科を受診しており、患者自身での薬の管理がほぼできていない
状況が改善できた。
- ・新しく使う栄養剤についての使用方法の説明が患者家族と一つずつ確認
しながらできたことで、患者家族の心配や不安を解消できた。また併用薬
による副作用を聞き取りにより発見できた。
- ・服薬の不安、飲み忘れの不安などを聞き、医師に提案し、改善された。
- ・コンプライアンス向上、症状改善、血圧安定、血糖良化、減薬につながった
など

今回の事業でうまくいかなかった点

- ・認知症であり独居の患者のため、今後薬の管理について、お試し訪問
期間中に方針を決められるとよかった。
- ・アドヒアランスが向上しなかったこと。薬を飲むことの必要性など、納得して
もらえなかった。
- ・物忘れの症状から、薬の場所、飲む事を忘れてしまう。訪問できない日
の服用促しに課題が残ります。
- ・まだ多少の残薬がある。
- ・時間をかけて症状チェックしないと減薬ができなかった。(短期すぎる)
- ・3科受診して、3種のお薬手帳を使い分けている。1冊に統一できなかった。
など

今回の事業で感じた薬剤師の必要性や課題等

- ・紹介者のケアマネジャーの話では、すぐに訪問して欲しいケースがいくつもあるが、費用や患者、家族の了解など障害があることを聞いた。薬剤師の有用性、必要性をもっとアピールする必要性を感じた。
- ・薬剤師が関わることで改善ができること(ポリファーマシー、副作用の把握)、と多職種で関わらないと改善できないことがあり、よりいっそうの連携の必要性を感じた
- ・患者さんやその家族は不安に思っている事、疑問に思っている事もストレートに医師には話せないようです。なんでも相談して頂けて、その橋渡しになればと思いました。
- ・在宅訪問というと、薬の管理がメインであるが、患者の家でゆっくりと説明することで、患者の意識が変わりはじめることを実感した。今回がジェネリックであったが、医療費削減に貢献することも必要と思う。
- ・コミュニケーション能力をもっと上げていきたい。介護に関する知識不足あり。

など

出張お薬相談事業

出張お薬相談会(全2回実施)

実施場所 平塚市子育て支援センター

実施日時	参加薬剤師数	相談参加者数
10月19日(金)	8人	20人
11月14日(水)	6人	19人

対象 子育て支援センターを利用している
0歳から3歳までの子を持つ子育て世代

相談内容の概要

アンケート回収 39件(回収率100%)

主な相談内容

- ・ 子供の塗り薬など外用薬の使用
- ・ スキンケア
- ・ お薬手帳の活用方法について
- ・ 授乳時の薬について
- ・ 離乳食について
- ・ 子供に上手に薬を飲ませる方法
- ・ 相談者の母親自身の薬
- ・ サプリメントの相談

など

お薬相談会の様子



相談を受けての薬剤師の感想・意見

- 一つの相談事が終わってもまた相談したいという母親もいて、相談したい事が次々とでてくる。相談会の継続の必要性を感じた。幼稚園、保育園など薬局の近くにある施設を訪れ、相談会を実施したい。
- ゆっくり時間をかけて相談できたことで、普段から気になっていた子供や母親自身の薬や食事についての聞くことができたという声が多かった。一方で、相談スペースに十分広さがなく、隣の相談者の声が聞こえてしまうことがあった。衝立を使うなどプライバシーに配慮することが必要である。

まとめ

おためし薬剤師訪問事業

- 説明会、実際の訪問を通じて薬剤師の在宅訪問についてアピールすることができ、薬局へ患者を紹介することや薬や在宅訪問など相談がしやすくなったと声をいただいた
- 多職種連携を深めるため、来年度、地域のサポート医と在宅訪問を行っている薬局、地域包括支援センターとの合同研修会を9月に予定している。

出張お薬相談事業

- 処方箋がなくても薬局を訪れ、薬や健康について相談できることを認知してもらえる良い機会になった。
- 来年度は平塚市内、5か所にある子育てサロンのうち2か所訪問し、相談会を実施する。来年度以降、順番にサロンを訪問していくことを計画している。